

2021年(令和3年)

第10号

(7月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～慈しみの眼をもって～ 亀岡支部壮年部 吉田享司

佼成 7 月号のお役を頂きました亀岡支部の吉田です。宜しくお願ひします。

コロナウィルスの感染拡大に伴い、私も昨年の春から教会には顔を出せていません。法座所も閉まっていますので、佼成会の活動としては、地区の方に新聞等を持っていく時お目にかかる程度で、ほとんど活動は休止状態です。コロナ禍にあって最近の関心事はワクチン接種です。お陰様で夫婦二人とも6月に第1回の接種の日程が決まりました。亀岡のサンガスタジアムでも京都府の集団接種が予定されています。

近頃旅行はもちろん、外食もあまりいけません。たまに行くのはハイキングです。ちょっとした山に登っています。昨年大河ドラマで「麒麟が来る」が放映されました。亀岡は明智光秀が亀山城を築城した地です。光秀は丹波攻めで多くの山城を攻略しています。山城跡はちょっとした山登りには最適です。少し急しゅんなのですが、高低差も二・三百メートルと手ごろで、なりよりも頂上からの展望が抜群です。亀岡からは一時間以内でふもとまで車で行けて登れますのでよく孫たちを連れて行きました。

最近、私には嬉しいことがあります。それは、最年長の孫が「じいちゃん勉強教えて」と毎週やってくることです。風邪で学校を休んだ時の算数を教えてと来たのが最初でした。5年生の3学期から現在中学1年生の1学期まで続いています。勉強に関心が持てるようになったのか、成績に繋がるのか定かではないので

すが、私も一緒に勉強できてうれしくなります。横で聞いている家内からは説明がくどいといわれますが、その辺りは孫がうまく対応してくれているようです。

佼成 7 月号の会長先生のご法話は、6月号に引き続き「観世音菩薩普門品」のお話です。特に私が気付かされたことは「観音さまと同じ心が私たちにもある」(6月号)、「深い慈愛心のことであり／わたくしの内にも流れている」(7月号)というところです。慈愛心を持って相手と接すれば、おのずとその言動は相手に届くと思われまふ。私たちは相手の行動を見て、その良し悪しで忠告したりするものです。でも大切なのは正しいか間違っているかではなく、その場にふさわしいか(その場に最も合っているか、または必要か)です。相手の気持ちになれば、その場にあった言動が思い浮かぶのではないのでしょうか。こんな気持ちがあれば、色々なハラスメントも、もっと少なくなるのではないのでしょうか。こんな時(コロナ禍)こそ、身近な人にこの気持ちを傾けたいものです。

孫の勉強を見るときも、計算ミスや勘違いのミスをしないようにと思うのですが、欠点を直すより長所を、そうず孫も褒められて伸びるタイプです。間違いを指摘するより、考えている時間が待てるか、頑張ったとき褒めてあげることができるかに気を付けています。孫の気持ちになって寄り添っていきたいと思っています。孫とこんな時間が持てることが私にとって有り難いことです。

あなたのお仕事を教えて下さい ～乙訓支部 外園恵三さん～

Q：仕事先はどちらですか。

A：中信総合サービス株式会社

Q：どのような仕事内容ですか。

A：中央信用金庫の銀行施設の警備業、事務センターへの職員、お客さまへの対応、不審者、不審物の対応、火災・災害時等の避難誘導、入出車両の誘導を、24時間交代制勤務で働いています。

Q：なぜ今のお仕事に就かれたか。

A：前職の自衛隊から職場斡旋して頂きました。元銀行員と自衛隊OBで構成された会社となっております。

Q：仕事中心に心掛けていることがあれば教えて下さい。

A：会社の看板としてお客さまに不安・不信感を与えないよう、気持ち良く利用していただく様に心掛けています。その為に、予想出来ることは準備を怠らず、不測の事態は同僚と共に対応するよう心掛けてます。その為には日頃から同僚との人間関係を大事にしなければと思って居ります。なるべく我を出さ無いように、限られた人員と広くない職場ですので、最後に笑って仕事が終われるように心掛けてます。

令和3年、私たちは「どこでも道場 祈り祈られ 笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。 <https://rkk-kyoto.jp/>